

競技注意事項(通信陸上)

1 競技規則について

本大会は、2025年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会要項及び競技注意事項、申し合わせ事項によって行う。

2 競技場使用について

- (1) 本競技場は混雑を避けるため、選手のみの使用とする。
- (2) ウォームアップは補助競技場を原則とする。本競技場での砲丸投の練習については、指定時間で行う。ただし、円盤投の練習については本競技場のみとする。使用の判断については総務で行い、アナウンスした場合のみ使用可とする。各練習場の練習は競技役員(ウォームアップ場係)の指示に従うこと。
- (3) 大会期間中、下記の時間帯で本競技場を開放する。
 - 1日目 8時00分から9時30分
 - 2日目 7時30分から9時00分
 - 3日目 7時30分から9時00分
- ※投つき練習の使用優先時間帯(別紙)
- (4) スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし走高跳は12mm以内とする。
(競技規則第143条のスパイクの寸法④を適用)
- (5) 救護本部は本競技場1階医務室に設置する。応急処置は行うが、以後の責任は負わない。

3 選手の招集の方法について

- (1) 招集所は本競技場第3会議室(補助競技場側)内に設置する。
- (2) 招集開始時刻と完了時刻は競技日程の通りとする。
- (3) 本大会における「招集開始時刻」とは、競技者係が点呼を開始する時刻である。また、「招集完了時刻」とは、すべての競技者の点呼が終了し、競技者係の誘導に従い、招集所から競技を行う場所へ移動を開始する時刻である。
- (4) 競技者は、招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、トラック競技者は腰ナンバーを受け取る。点呼後は各校の控え場所などには戻れないので、競技に必要なものはすべて準備して来る。
- (5) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。
- (6) リレーについては、招集後それぞれの競技場所に移動する。
- (7) 四種競技についても競技日程の通りとする。
- (8) 弃権する場合は、所属する学校の監督が欠場届を記入し、招集開始時刻までに競技者係(招集所)に必ず提出する。用紙は、招集所に用意したものを使用する。
- (9) 招集所には選手以外は入場できない。(いわゆる「付き添い」の禁止)
- (10) 多種目同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が招集所に準備されている多種目同時に出場届に記入し、最初の種目の招集完了時刻までに招集所に提出する。

4 競技場への入退場について

- (1) 選手の入退場は、すべて競技役員の誘導に従う。
- (2) 選手、競技役員、指定の帽子を着用した補助員、本部の許可を得て特定のビブスを着用した報道関係者以外は競技場内への立ち入りを禁止する。
- (3) トラック競技の競技者は、ゴール後第1ゲートから退場し、各校の控え場所へ戻る。
- (4) リレーに出場した選手は、競技終了後、競技役員の指示に従って退場する。
- (5) フィールド競技の競技者は、競技役員の指示に従って退場する。

5 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、胸と背に付けること。ただし、走高跳(四種競技を含む)、棒高跳、走幅跳に出場する選手はどちらか一方でよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、招集所で配付される写真判定用の腰ナンバーカードをランニングパンツの右側の上部やや後方に付ける。

6 競技用具について

- (1) 使用する競技用具は、主催者が準備したものを使用する。また、競技場内に個人の競技用具を持ち込むことを禁止する。ただし、棒高跳用ポールは個人で準備し、かつ競技場所で跳躍審判員から検査を受け、合格したものに限る。
- (2) 携帯電話やトランシーバーなど通信機器の競技場内への持ち込みを禁止する。

7 予選通過について

- (1) 短距離種目は準決勝2組、800mは2組でA・B決勝を行う。
- (2) タイムにより次のラウンドに進む競技者の決定について
 - ① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mHで同記録の競技者が出了場合は、写真判定の1000分の1秒の実時間を判定して進出者を決める。その結果、記録差がないときは、レーンに余裕があれば同記録者が次のラウンドへ進出できるようにする。それが不可能なときは、同記録者本人あるいはその代理人が抽選を行って進出者を決める。

8 競技について

- (1) スタートについて、四種競技以外のトラック種目では、1回目の不正スタートで失格となる。なお、四種競技では2回目以降に不正スタートをした競技者はすべて失格となる。

(2) シューズの規定について (TR 5)

□トラック種目：20mm □フィールド種目：20mm

※ 全員のシューズチェックは不要

WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所や受付にてチェックは不要となる。ただし、審判や審判長の権限により求められた場合はシューズをチェックする。チェックの内容としては、TR 5. 1 3. 3 (国内TR 5. 2) にある厚さ等を確認する。

(3) 800mのレーンは、スタートから第2曲走路の出口までをセパレートとし、その地点からオーブンとする。3000mは参加人数に応じて2段階スタートとする。

(4) 100m～400m、およびハーダル競技では、フィニッシュライン到着後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)に沿って走り抜ける。(リレーの第4走者も含む)

(5) 四種競技の最終種目(男子400m、女子200m)は、3種目終了時点で番組編成を行うので、掲示板で自分のレーンを確認すること。

(6) 3000mでは天候により給水を設けることがある。

(7) 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
男子	1m40 1m60	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	1m76	1m79	以後3cmずつ上げる
女子	1m15 1m35	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	

(8) 棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
男子	2m20 3m00	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	以後10cmずつ上げる
女子		※女子については、参加選手の実態に応じて競技役員と協議の上、高さを設定する。								

(9) 四種競技の走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
男子	1m30 1m48	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60	1m63	以後3cmずつ上げる
女子	1m10 1m28	1m15	1m20	1m25	1m28	1m31	1m34	1m37	1m40	1m43	

(10) 走幅跳・砲丸投・円盤投に関しては、全て計測することを基本とするが、参加人数等の関係でパスライン方式やアップダウン方式で計測することもある。

(11) リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻1時間前までに、監督が自筆で署名のうえ、競技者係(招集所)に1部提出する。用紙は、招集所に用意したものを使用する。

(12) リレー競技に使用するマークは、各学校で準備するものとする。ただし、競技終了後は責任をもって撤収する。なお、マークは各走者とも1箇所のみとする。

(13) リレー競技においては、出場者全員が同系色のユニフォームを着用する。

9 表彰について

(1) 表彰式は行わない。

(2) 各種目8位まで賞状を授与する。

(3) 各校の代表者は室内走路に設置された机から賞状を忘れずに持ち帰ること。

10 その他

(1) アクセサリー類(指輪・ネックレス・サングラス等)の着用については、医療目的以外の物は、原則禁止とする。

(2) ユーチングエリアからの自チーム選手への助言、飲み物や氷の受け渡し、試技を撮影した動画の視聴については可とする。

(3) メインスタンドでの集団応援は禁止する。また、フィールド競技進行中は付近の芝生スタンドからのトラック競技に対する集団応援を禁止する。

(4) 競技者の人権保護の観点から、写真・動画等の撮影については以下の事項を禁止とする。

① 無許可での動画や画像の撮影やSNS等ネット上への公開

② 撮影を禁止された区域での撮影。

③ 競技者がスタートイングブロックの足合わせをしているときの撮影。

④ 試技を待っている間や、身体を動かしているときの撮影。

⑤ その他、主催者から禁止の指示があった撮影。